

みんなであくしゅ

～学校全体をあげての構造化の取組み～

学年等

学校全体 ～共生社会をめざして～

ねらい

児童が安心していきいきと学ぶ中で、生きる力を身につけ、自分らしく自己表現を図っていくことのできる教育活動の推進をめざす。

- ◇ どの児童もいきいきと生活ができるように、組織的に学校をあげて構造化に取り組む。
- ◇ 障がいのあるなしや、教科の得意・不得意などにかかわらず、どの児童にもわかりやすく学習できるように、授業内容を工夫する。
- ◇ 学びあい、支えあい、高めあう児童と先生のいる学校をめざす。

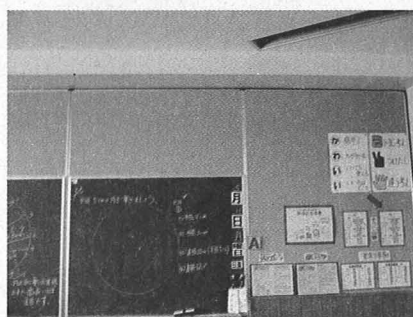
【構造化について】

構造化とは、見通しをもたせ、集中しやすくするための環境や指導の工夫である。例えば、LDなどの支援の必要な児童が、自律的に自発的に行動したり考えたりできるようになることを目的として行う。理解が進み、適切な行動が可能になり、成功体験ができるように、場所や場面、スケジュールや時間、活動の内容や順序などを構造化する。このような構造化の取組みは、全ての児童にとっても安心して生活を送る上で有効である。

取組み例

【教室環境の場所や時間などの構造化】

① 前面黒板の壁面



黒板に集中できるように、黒板の上部には掲示物をはらずにすっきりさせている。

② 1日のスケジュール



教員を頼らずに、児童自ら一日のスケジュールを把握できるようにしている。

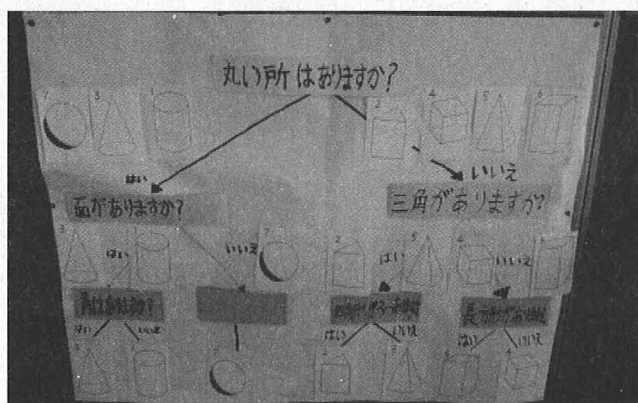
③ 当番表



名前カードに顔写真をはり、誰がどの当番なのかすぐにわかるようにしている。

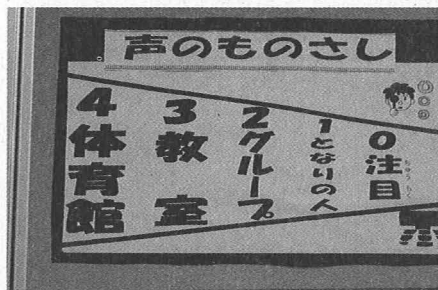
④ 立体の呼び方

問題を図解し、解き方の流れをわかりやすく説明している。



【授業中のルール】

- ①「 声のもののさし（中高学年用） ② 挙手するときの決まり ③ 話し合い時のルール



出す声の大きさを「ただ大きい声で話さない」と指示するのではなく、図解することで誰にでも理解しやすいようにしている。



全員が授業に参加できるように、挙手するときの決まりごとをつくり、図解している。



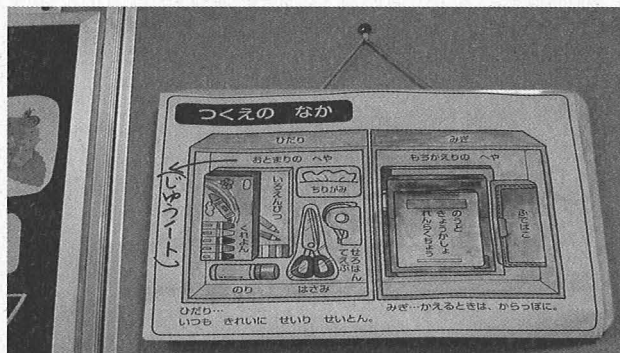
話し合いのルールを決め、取組み内容により「ひそひそモード」や「おだまりモード」のカードを黒板に貼り、けじめをつけやすいようにしている。

- ③ 声の大きさ表（低学年用）



出す声の大きさを「ただ大きい声で話さない」と指示するのではなく、動物の大きさを理解しやすいようにしている。

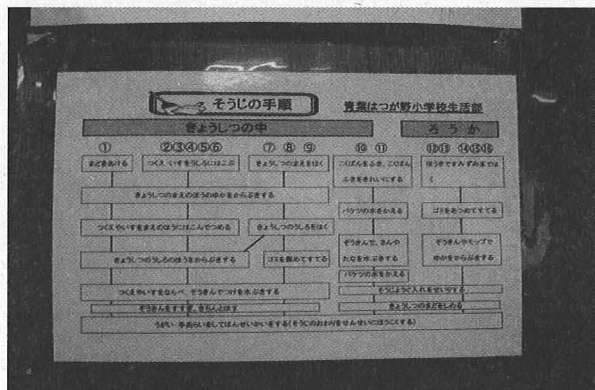
- ⑤ 机の中



何があって、何がないのか。
また、使った物をどこにしまうのかを図解し、整理しやすいようにしている。

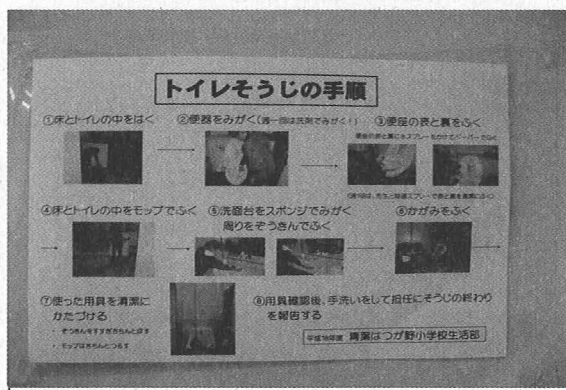
【そうじの構造化】

- ① そうじの手順



誰がやっても同じようにきれいに掃除できるよう、一枚に図解し、わかりやすくしている。

- ② トイレそうじの手順



トイレのように、そうじ手順が複雑である場所には、できるだけわかりやすいように画像で表示している。

③ ごみはここへ！



ゴミ箱の位置がすぐにわかるように、また、設置場所を固定するために、図示している。

④ スリッパの並べ方



使うときにはきやすいように、脱ぐときに整えやすいように、仕切りをつけている。

⑤ 道具の置き場所



そうじ道具入れがない場所では、使いやすい状態で、かつ教室活動の妨げにならないように一箇所に道具を集めている。

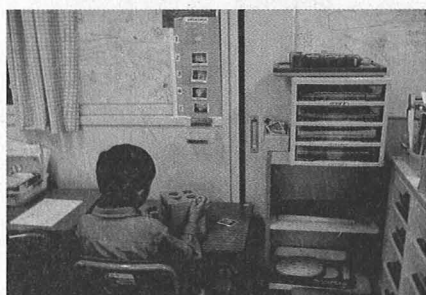
⑥ ぞうきんをきれいにならべよう！



洗ったぞうきんを、きちんと干すというのは、児童にとって少し面倒なことである。そこで、できるだけわいくて楽しそうなイラストを使い楽しく作業ができるように工夫している。

【支援学級の構造化】

① 座席の配置



みんなと一緒に勉強するのが苦手な児童には、自分でできることを増やせる場所として、教室を仕切って居場所を決める。

② 整理カゴ



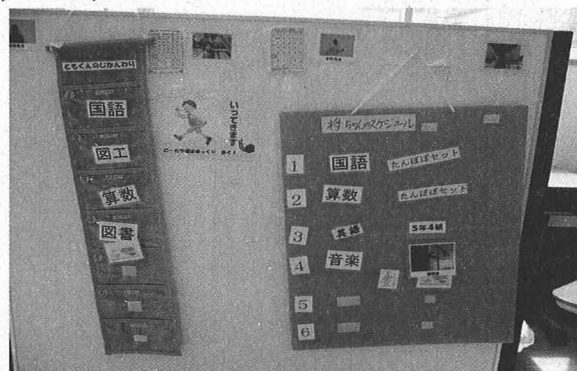
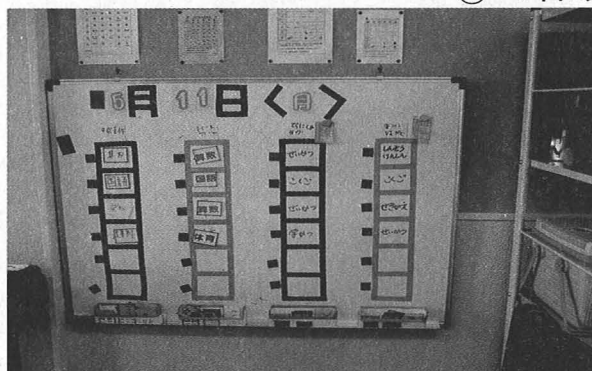
机の横のカゴは、課題を入れておくもの。課題を一つずつカゴにわけて、混乱をさけている。

③ ブースの工夫



児童一人ひとりの特性に応じて、ブースの掲示物をかえている。

④ 1日のスケジュール



児童も教員も、すぐに一日の流れが把握できるように図示している。

【学習への視覚支援】

① スピーチの仕方

スピーチの組み立て方がわかるように、カードにしている。

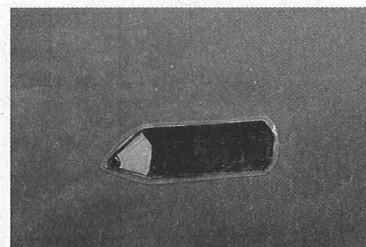


② いまここ



黒板上で「今、どこを学習しているのか」を示すカード

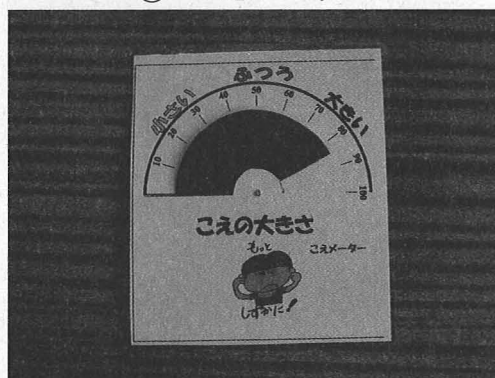
③ ここを書く



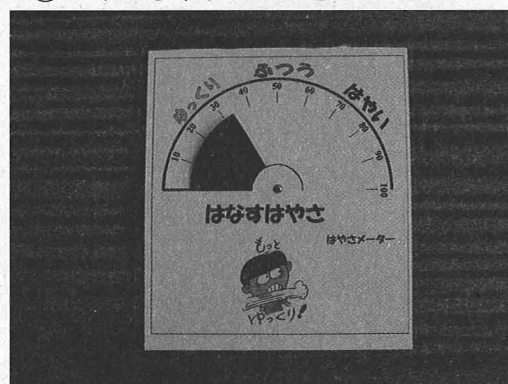
黒板上で「どこを書くのか」を示すカード

「こえメーター」「はやさメーター」「カメーター」はそれぞれの大きさをメーターにして視覚的に示す。

④ こえメーター



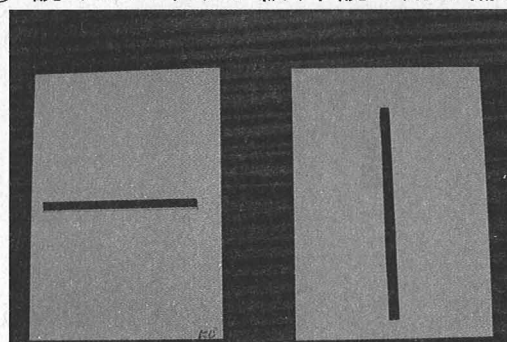
⑤ (はなす) はやさメーター



⑥ カメーター



⑦ 読みのスリット板(本読み用の補助グッズ)



一行ずつ本を読むときに使う補助グッズ
(左:よこがき用、右:たてがき用)

本にシートをかぶせて、
一行ずつ見えるようにスライドさせる。

取組みを進めて

[障がいを理解するための教育を、次の3点を軸にして推進]

- 啓発 <教職員へ> ・肢体に障がいのある児童の保護者の話を聞く ・市教育委員会指導主事の講話
 - ・肢体に障がいがあり、パラリンピックに挑戦している先生による講演
 - ・支援教育学習会（発達障がい、WISC-Ⅲの検査法、模擬事例検討会）
- <児童へ> ・車いすダンスの人たちとのワークショップ ・各学年と支援学級との交流会
 - ・支援学級担当教員による通常の学級に出向いてのワークショップ
- 支援教育の推進 ・学校便り ・支援教育校内委員会（事例検討会、支援教育学習会）
 - ・支援教育校内研修会（年2回：配慮児童の報告会）（年2回：校内全体研修会、学識の講演など）
 - ・構造化（学習環境の整備、掃除など） ・大阪府発達障がい者支援センター（アクト大阪）の巡回相談
- 交流教育の推進 ・支援学級と他校の支援学級や地域との交流
 - ・支援学級と通常の学級との交流（授業時間、休み時間、給食時間、当番・委員会活動、学年交流会）

これら様々な取組みを進めていくことを通じて、学習環境面での構造化が自然に進んできた。特に教室の環境整備についての、前面黒板の壁面はすっきりと、1日のスケジュール、授業中のルール、机の中、当番表、名札のチェックなどの学級担任の工夫を始めとして、教室やトイレ掃除の仕方などでも工夫するようになってきた。これは、発達障がいなどの支援の必要な児童だけでなく、どのような状況の児童にもわかりやすいユニバーサルデザインをめざしている。もちろん、支援学級でも構造化を進め、自立課題が取り組めるように工夫しており、介助の必要な児童も少しずつ自分でできることが増えてきた。1日のスケジュールは、その児童に適するよう活動の内容や順序を立てている。また、スピーチにも力を入れており、スピーチの仕方を視覚により支援している。

これらの取組みのおかげで、支援学級の児童は様々な人と関わる中で本当に楽しくいきいきと自信をもって学校生活が送れていると実感している。支援教育は、磐石な学級経営のもとで成立すると日頃感じている。一人では支援教育は進められない。学校全体の体制の中で全教職員の共通理解の下、障がい者を取り巻く課題と障がいについての理解を深める教育がますます浸透し、児童みんなが安心していきいきと生活でき、学びあい、支えあい、高めあう子どもと先生のいる学校をめざしていきたい。

【 ポ イ ン ト 】

☆ 全ての児童が安心して生き生きと学ぶためには、支援学級在籍の児童のみならず、様々な教育的ニーズをもつ児童たち一人ひとりに対して個々のニーズにあった教育を提供することが必要である。

この取組みは、聴覚からの情報が理解しにくいとされている広汎性発達障がいの児童などに対して「構造化」をキーコンセプトに校内や教室での「共学・共生社会」をめざした取組みであり、特別支援教育と人権教育を統合する形での福祉教育の実践であるといえる。

☆ <学校におけるユニバーサルデザイン化のポイント>（愛媛大学 花熊 暁 教授）

* 教室・学習環境づくり ・教室環境の整備 ・学習環境の整備

* 授業づくり ・見通しがもてるように ・指示、説明をわかりやすく

・視覚的にわかる手がかりを用意 ・個人差に考慮し、基礎と発展を明確に

* 学級集団づくり ・落ち着いてすごせる学級の雰囲気 ・間違いや失敗を否定的にみない学級

・学び方の違いを認め合える学級